

児童の自己肯定感が高まり、自治的集団へと変容する学級経営の在り方

～高学年における学級活動を通して～

1. 設定理由

2020年度から次期学習指導要領が全面実施となる。「主体的・対話的で深い学びの実現」が大きな課題となっていることは周知の通りである。しかしながら、ただ話し合い活動を取り入れても大きな効果は得られない。大切なのは、「学習者の高い意欲」と「良質な人間関係」である。

「学習者の高い意欲」は主に各教科における指導によって育まれる。しかし、「良質な人間関係」は、各教科よりも学級活動の中で育てるのが最適だと考える。また、児童の自己肯定感の高まりによって、自分に自信がつくだけでなく、積極的に友達のために行動したり、自分の意見を堂々と述べたりすることができるようになるのではないかと考える。

そこで、学級活動の時間の内容を精査し、人とつながり、自分のよさを感じられるエクササイズを継続して実施していくことで、児童の自己肯定感を向上させ、学級の問題を自分たちで解決していける児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- 1：児童の実態を把握し、「主体的・対話的で深い学び」を意識したエクササイズを行っていけば、児童の自己肯定感が高まり、人間関係が良くなるだろう。
- 2：自己肯定感が高まり、人間関係が良くなった上で、学級の実態に即した話し合い活動を行えば、児童は主体的に話し合い、自治的集団として成立していくだろう。

3. 研究内容

- (1) 自己肯定感を高めたり、人間関係を良くしたりするために、児童の実態に即したエクササイズを継続的に実施。
- (2) クラス会議の方法を精査し、学級の実態に即したクラス会議を継続的に実施。

4. 結論

- 継続したエクササイズは、児童の自己肯定感を向上させ、人間関係を良くすると言える。
- 自己肯定感が高く、人間関係が良い学級では、一人ひとり意見をしっかり述べることができるので、話し合い活動が充実することが分かった。
- クラス会議を行うことで、学級を自分たちでよくしていこうという空気が生まれた。担任が決めるのではなく、自分たちできまりを考えようとする雰囲気生まれた。

印旛支部

四街道市立山梨小学校

小島 佑一

成田市立玉造小学校

前田 隆紀

研究主題

児童の自己肯定感が高まり、自治的集団へと変容する学級経営の在り方
～高学年における学級活動を通して～

1 主題設定の理由

(1) 今日的な教育的課題

小学校では、2020年度から次期学習指導要領が全面実施となる。教育課程企画特別部会論点整理では、次期改訂に向けての課題として、「自己肯定感や主体的に学習に取り組む態度、社会参画の意識等が国際的に見て相対的に低いこと」が挙げられている。また、次期学習指導要領において大きな話題になっている「主体的・対話的で深い学びの実現」だが、学級の人間関係が成熟していない段階で、協議等を行っても、特定の児童のみが意見を述べていたり、何を発言しても受け止めてもらえない安心感がなく、自信をもって発言できなかつたり、答えを写すだけだったりの活動になってしまう可能性がある。それを阻止するためには、学習者の高い意欲と学級内の良質な関係性が必要である。

学習者の意欲に関しては、各教科における指導が重要である。しかしながら、自己肯定感や良質な人間関係は特別活動のなかで築かれることが多い。特に、学級活動においては、学級の問題点を話し合ったり、宿泊学習など行事に向かってみんなで活動したりすることができるので、それらを育てるのに最適だと言える。

また、次期学習指導要領第6章 特別活動〔学級活動〕の目標には、新たに、「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決（中略）」とある。教員が学級の問題を提起し、常に固定された児童が発言するのではなく、児童一人一人が、主体的に学級の問題を考え、話し合っていく必要がある。

(2) 学校の実態

- ・山梨小学校は、各学年1学級と特別支援学級2学級、計8学級で構成され、児童は132名、教員は13名である。（2016年9月1日時。2017年4月1日時は、児童数が127名となった。）
- ・学区の旭ヶ丘地区は一軒家が多い。年々児童数が減少し今では四街道で一番小さい学校となっている。
- ・明るく元気で素直な児童が多い。千葉県標準学力検査から、学力は全学年、標準的であることが分かる。しかし算数科に関しては、標準より劣っているということが分かる。
- ・定期的に生徒指導会議、特別支援会議を開き、気になる児童の情報交換に努めている。また、毎月必ずいじめ防止アンケートを実施したり、年2回、いじめ0集会を行ったりすることでいじめ防止に努めている。

(3) 学級の実態 5年時23名（男子10名、女子13名）

6年時24名（男子10名、女子14名）

- ・素直で活動的な児童が多く、山梨小学校の中では学力が高いのだが、学力差も大きい。

- ・体力テストの平均が「A」に近い「B」であり、運動に関しては、得意な児童が多い。しかし苦手な児童の運動能力はかなり低い。
- ・5、6年間学級が一緒だったので、学級、男女仲はよいと思われる。一方で、出会い直しの機会がないので、マイナスなイメージが付くとなかなかそのイメージを払拭できなかったり、過去のトラブルが現在に影響を与えていたりすることも少なくない。
- ・5年生の9月～1月にかけて、生徒指導上のトラブルが女子に対して、5件発生した。(ものかくし、悪口の書かれた手紙) 特定の児童に対する継続したいじめはないが、突発的なトラブルがある。
- ・指示されたことについてはよく働くが、自主的に考えて動ける児童は少ない。

(4) 配慮を必要とする児童の実態

【Aさん】

- ・特別支援学級在籍(情緒)。5年生になって道徳の時間以外は基本的に教室でみんなと一緒に活動している。母親とは、毎日ノートを通して連絡を取り合っている。普段はそうでもないが、気持ちが高ぶりすぎると手がつけられないくらい興奮してしまうことがある。男性の先生の指示は素直に聞けるが、女性の先生の指示はなかなか聞けない。アンケートの自己肯定感に関する項目の数値が、問2、3で1(最低)だった。

【Bさん】

- ・非常に学力が低い。視覚情報が弱いためか、文章の読み取りが苦手で、文字も乱雑である。母親も心配しているが、検査を受けるつもりはないとのこと。言動や行動も幼い面があり、4年生以下の時は友だちに馬鹿にされたり、いじわるをされたりすることもあった。アンケートの自己肯定感に関する項目の数値が問1で1、問2、3では2だった。本人が言うには、特に学習面で、自分はだめだと感じることが多い。

【Cさん】

- ・現在、父親と祖父母の4人暮らし。なまけ癖があり、行事には意欲的に参加するが、勉強や自分の気がのらないことには、なかなか参加しようとしめない。やる気になれば、行動が持続するのだが、気がなくなると声をかけても進まなくなる。短気な面があり、友だちに厳しいことや心にもないことを言ってしまうトラブルになることもしばしばある。自分がされたことには敏感で、担任に訴えてくる。学力的にはやや低い程度。アンケートの自己肯定感に関する項目の数値は全て1だった。5年時の11月、1月に、生徒指導上のトラブルがあった。

2. 研究仮説

仮説1

児童の実態を把握し、「主体的・対話的で深い学び」を意識したエクササイズを行っていけば、児童の自己肯定感が高まり、人間関係が良くなるだろう。

仮説2

自己肯定感が高まり、人間関係が良くなった上で、学級の実態に即した話し合い活動を行えば、児童は主体的に話し合い、自治的集団として成立していくだろう。

研究にあたり、仮説を2段階設定した。第一段階として、「自己肯定感を高める」「人間関係を良くする」ことを中心とした活動を行う。活動は、「主体的・対話的・深い学び」を意識したものをを行う。

「主体的な学び」については、児童の現状と課題を担任が把握し、活動を提示する。そして児童に、なぜその活動を行っているかを自発的に気付かせ、現状を振り返らせる時間を組み込む。さらに、どの児童も参加できる活動を行う。学力・運動能力に関係なく、楽しい活動を行うことで、児童もとくみやすい気持ちになると思われる。

「対話的な学び」については、児童一人で活動するものではなく、全員を巻き込んだものとする。全員で活動するものもあれば、グループで活動するものもある。共通した条件として、必ず話し合う場面があるものを優先的に活動にする。

「深い学び」については、活動の終わりに必ず振り返りを書かせることで、ただ楽しかっただけではなく、何を学んだのかを考えさせる。

第二段階として、学級の実態に即した話し合い活動を行うために、「クラス会議」を行っていく。児童から、学級の課題に関する議題を集め、解決するための方法を話し合っていく。

仮説1については、学期毎にアンケートをとり、数値の変化を追っていく。学期で数値の向上が見られれば、仮説2に徐々にシフトしていく。数値の向上が見られない場合、仮説1を継続して行っていく。

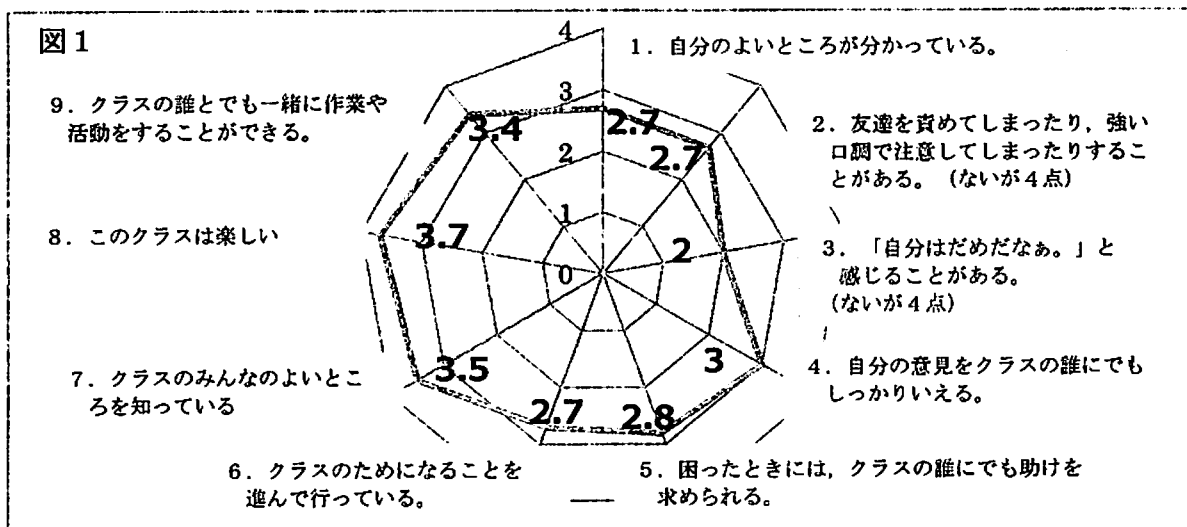
3. 研究内容

(1) 対象学級児童への実態調査の実施とその分析及び考察

本研究では自己肯定感・主体的活動・人間関係の高まりを見るために、以下の9つの項目でアンケート調査を行った。問1～3は自己肯定感、問4～6は主体的活動、問7～9は人間関係と項目を分けてアンケートを作成した。児童一人一人の数値の変容を見ると同時に、平均値で学級全体の数値の変容を見ることとした。(各項目は4点満点で集計する。)

図1 学級経営アンケート(2016年 9月 1日実施)

(アンケートは、「教育課程企画特別部会 論点整理」「東京学芸大学 瀧口・森田・山田：学校現場における児童の社会性測定法の開発と活用に関する事例研究」を参考に、小島が作成した。)



5年生の4月～7月の学活の時間では、エクササイズを活用したり、連絡帳にコメントを入れたりもしていなかった。月ごとの目標を決める話し合いに関しては、小グループで話し合い、全体の場で代表が意見を述べて、多数決を取るという仕組みであった。

図1から、自己肯定感に関する項目の低さがはっきりとわかる。また、主体的活動の項目に関しても低さが見られる。本学級の児童は、自己肯定感が低く、自分から行動しようとする意識が低いことが分かる。

また、生活面・学習面ともに担任から見て優秀な児童でも、自己肯定感が非常に低い児童がいた。自分に自信がもてない児童もいることが分かる。

一方で、人間関係の項目はおおむね高い。5年間一緒の学級で、付き合いも長いからではないかと考えられる。これらの項目に関しても、実践を通して、どう数値が変容していくのかを見ていきたい。

(2) 自己肯定感が高まるエクササイズの実施と連絡帳へのコメント

研究の実践にあたり、学級活動の指導計画の見直しを行った。まずは、学級活動の時間に導入として、ソーシャルスキルトレーニングである「アンゲーム」を3～4人組で、必ず5分間実施するようにした。アンゲームは簡単な質問で構成されており、「心のほぐし」「自分の意見をしっかりと言う」「相手が話しているときは黙って聞く」ということを目的として行った。

エクササイズについては、学級・児童が課題としているものに対して効果がありそうなものを、教員が選び、活動→話し合い→活動→振り返りの流れになるように実施した。振り返り時には、必ず児童の発表を入れ、活動を通して身に付いたことを発表させ、改めて全体で認識させた。(実施した内容と反省については、資料参照)

連絡帳には、一月に一度、必ず全児童に対して良かった点を記入した。学級懇談会では、児童の実態について伝えると同時に、コメントを入れるので、見て、褒めてほしいということ传达了。学習面・生活面問わず記入し、児童に「ここがすごく良かったよ。」という言葉添えて、返した。

(3) 児童の意識変容の分析・考察

活動を行って4ヶ月。再度アンケートを実施し、児童の意識変容の分析と考察を行った。

図2 学級経営アンケート(2016年 12月22日実施)

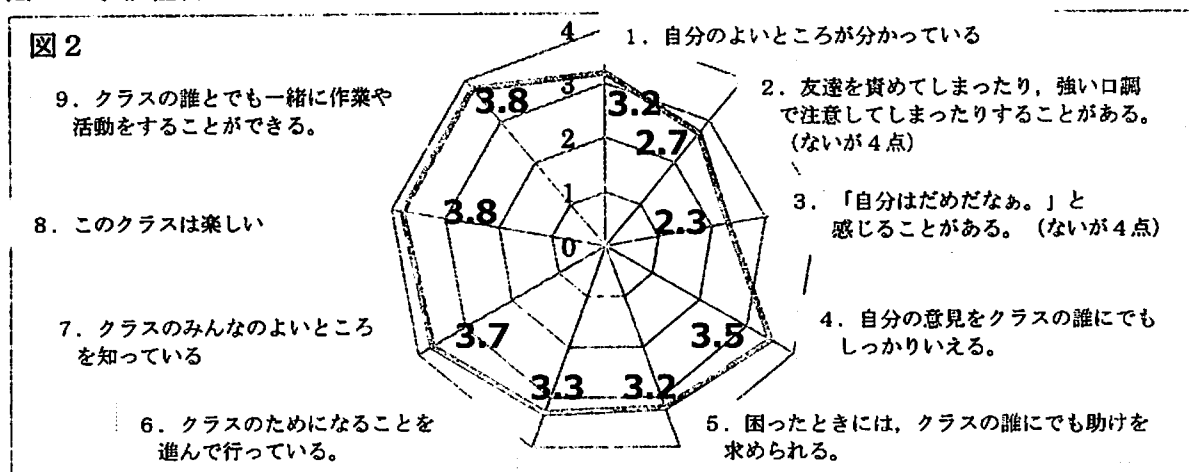


図2から分かるように、問2を除いた全体を通して、大きな数値の向上が見られる。この間に、生徒指導上のトラブルが4件発生しており、数値にどう影響するかと考えていたが、ここまでの数値の向上は想定外であった。

自己肯定感の項目について見ていくと、問1で大きな向上が見られる。また問3でも向上が見られた。

エクササイズと連絡帳の効果があつたことを裏付けるものである。逆に、問2に関しては変容が見られなかった。考察として、問4の向上が影響しているのではないかと考える。つまり、自分の意見を言えるようになったがために、良くない行動に対して、全員が目を向け、注意するようになったことが、友だちを責めてしまっているということにもつながっているのではないかと考える。確かに、教員から見ても、今まであまり注意していなかった児童が注意するようになってきたように思う。教員目線では、あまりきついようには感じないが、児童にとっては責めてしまっているように感じるようだ。

主体的活動、人間関係の項目は全て向上している。特に主体的活動は、エクササイズの副次的効果であり、学級全体で定期的に活動することの重要性が分かる。また、教員が意図してグループを作成し、活動させることで、普段は関わらない友だちの新たな面を発見することが数値の向上につながったと考えられる。

(4) 3学期での新しいとりくみ

数値の向上が見られたので、仮説2のとりくみを徐々に行うことにした。月4回学級活動を行えると想定し、1週目：前月の反省、今月の目標 2週目：エクササイズ 3週目：クラス会議 4週目：エクササイズ OR クラス会議となるように計画を立てた。クラス会議については、ポストと議題用紙を設置し、児童から議題を集めることにした。(資料編参照)

クラス会議の進行については、様々な方法があるが、今回の実践では次のような形式で実施した。

- ①全員が円になって座る。 ②議題提案者が提案内容と理由を述べる。
- ③議題について自分の考えをもつ時間を取る。
- ④一人ひとり意見を述べていく。(パスあり。パスをした児童も一周したら必ず自分の意見を述べる。)
- ⑤全員の意見が出たところで、個々の意見に対する質問や反論などを述べる。(挙手をした児童が述べていく。発表した児童は、できるだけ男女交互になるように児童が指名する。)
- ⑥まとまった意見を確認する。 ※教員は板書のみでよほどのことがない限り進行はしない。

クラス会議を行うにあたって、児童から議題を集めたところ、数多く議題が寄せられた。全ての議題を取り上げるのは、時間の都合上厳しい。しかし、議題の優先順位を決めて、議題が取り上げられないとその児童の考えをないものとしてしまう可能性がある。そこで、寄せられた議題を教員が次のように仕分けした。

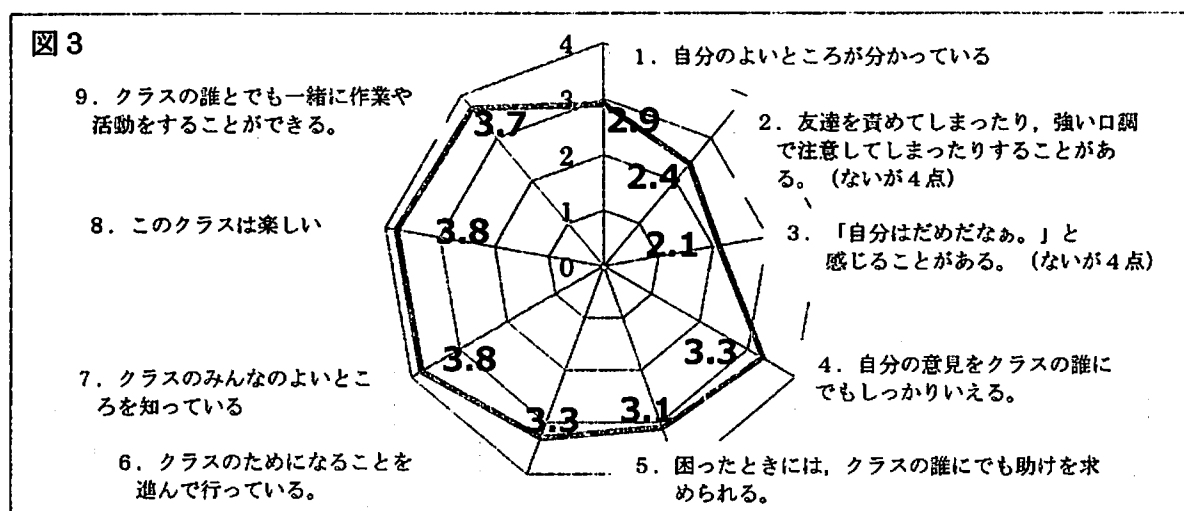
- ①クラス会議で話し合うもの。 ②学級ノートで意見を交換するもの。
- ③各係から返事をだすもの。(レクを行ってほしいなど)
- ④全体指導するもの。(最近〇〇さんがふざけている、廊下の歩き方がよくないなど)
- ⑤担任から返事をするもの。(宿題を減らしてほしいなど)

②の学級ノートだが、見開き1ページを活用する形式にした。右側には、議題に、提案者の思いなどを補足したものを貼り付ける。左側に、その意見に賛成か反対か述べ、理由と名前を明記する形式とした。書く時間については、給食後～昼休みの5分間が多かった。班で回すので、一日一人書いても、二週間あれば書き終わる。書き終わった段階で、担任が全てのノートを見て、判断を下したり、クラス会議に回したり、各係に決めたりしてもらった。

(5) 児童の意識変容の分析・考察

新しい活動を行って7ヶ月。再度アンケートを実施し、児童の意識変容の分析と考察を行った。

図3 学級経営アンケート（2017年 3月22日実施）



前回のアンケート結果と大きく異なり、自己肯定感と主体的な活動の項目における数値の低下が見られた。これには、大きく分けて2つの理由があると考察できる。

1つめの理由は、学活の時間があまりにも確保できなかったこと。学級閉鎖による授業時数の減少、6年生を送る会の準備、卒業式練習と重なり、授業をこなすだけが限界になってしまった。エクササイズやクラス会議が継続して実施できず、児童どうしの関わりや自己肯定感を感ずさせる機会が減少してしまった。最初の意識調査よりは向上しているが、継続して行わないことが児童の意識にマイナスの影響を大きく与えることが分かる。

2つめの理由は、児童の意識のもち方の変容である。2学期末のアンケート実施では、否定的な意見があまり見られなかった。しかし3学期のまとめのテストなどから、自分の現状を認識することで、「勉強関係で劣等感を感じる」「動きが遅くて劣等感を感じる」などの自己否定的な意見が上がった。高学年になればなるほど、他者と比較し、悩んでしまうのではないかと考察する。

クラス会議を行ったことにより、自治的集団への第一歩を踏み出すことができた。しかしながら、仮説2にある「自己肯定感が高まり」「主体的に話し合い」の2点に関しては、現状ではあまりできていないといえる。それらの向上のためにも、エクササイズとクラス会議の継続的な実施は必要不可欠であることが分かった。

(6) 新学年でのとりくみ

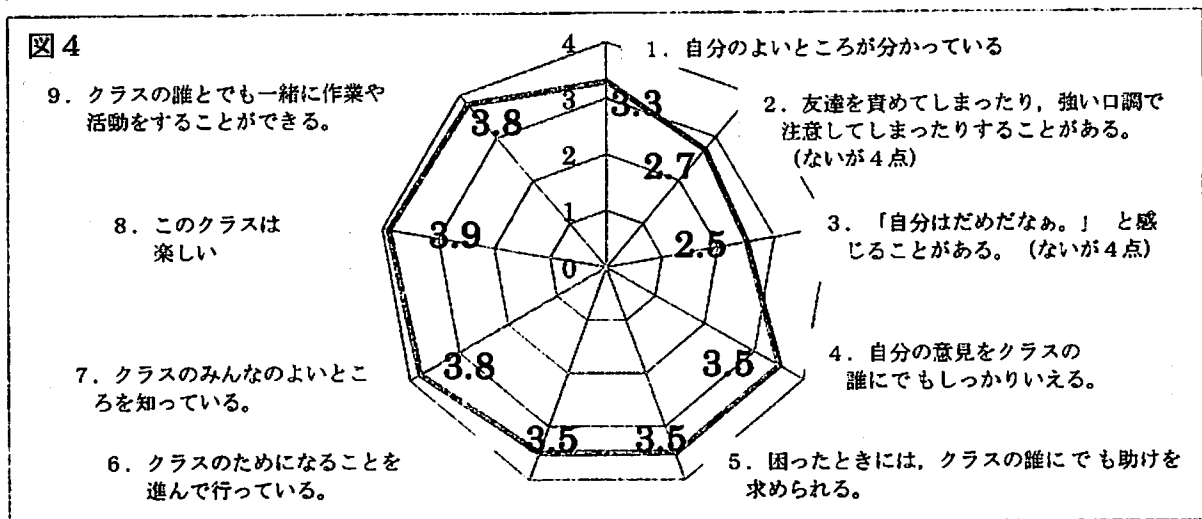
6年生に進級し、新しい気持ちで学級開きを迎えた。転入生も一人加わり、下級生の面倒を見る機会も増えた。下級生の面倒を見ることは、児童の自己有用感の向上につながる。自己有用感の向上は、自己肯定感の向上にもつながる。そこが数値に影響を与えることもあるかもしれない。しかし、今回の研究とは、内容がそれになってしまうため、特に新しい何かをすることはしないこととした。6年生24人ということで、全員が一人一役をもつようにした。このことにより、全員がリーダーとなりフォロワーになる。一人ひとりが何かしらの責任をもつことで、達成感を味わったり、認めてもらえたり、褒められたりする場が増える。そのことが、児童の自己肯定感につながるのではないかと考えた。

学活の基本的な流れは、5年時からの内容を継続して行っていく。変更点としては、導入のアンゲームを取材式自己紹介に変えたことである。理由としては、転入生が入ってきたので、より相手のことを知れるエクササイズにしたかったこと、もう一つは、「自分から話す」ということに慣れてほしいという担任の願いからである。

(7) 児童の意識変容の分析・考察3

新しい活動を行って1年。再度アンケートを実施し、児童の意識変容の分析と考察を行った。

図4 学級経営アンケート(2017年 7月13日実施)



5年生3学期末に行ったアンケート結果とは、大きく変わり、各数値の向上が見られた。研究実施前のアンケート結果と比較しても、各数値の向上がはっきり見て取れる。さらに、問1、3、5、6、8は最高数値を出している。やはり、継続したエクササイズは効果的であり、自己肯定感と人間関係が向上することが分かった。(問1～3:自己肯定感、問7～9:人間関係)

また、担任から見ても、以前の学級会では、一部の男子が意見を述べるだけにとどまっていたが、現在は女子やおとなしい児童も遠慮なく意見を述べる姿が見られる。それは、児童のアンケート数値(問4～6:主体的活動)の向上からも見てとれる。

ただ、自分の目標としては、平均した数値を「3」以上にしたいと考えていた。しかし問2、3ではそれが達成できなかった。問2に関しては、注意の仕方など、言葉遣いに関するエクササイズをもっと増やしたり、掲示物を活用したりするともっと良くなるかもしれない。問3に関しては、国民性という意見もあるが、児童に聞いたところ、「家庭でかなり言われる」「学習

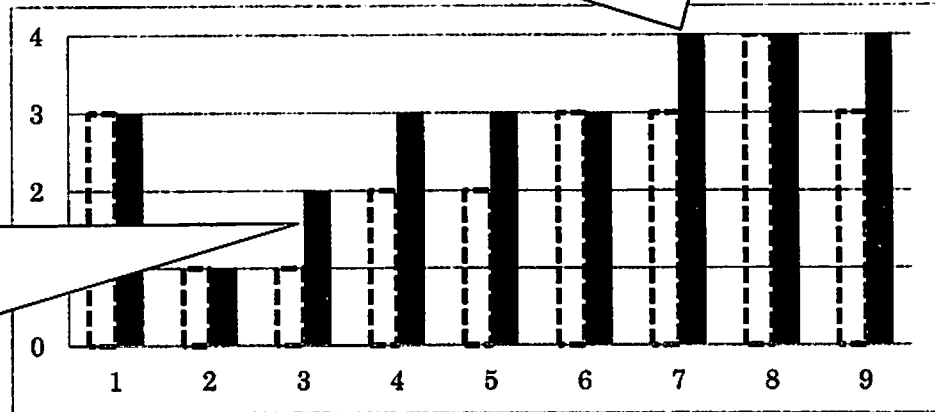
面」「友だちの成功が気になる」「自分の失敗が気になる」という意見が挙がった。これらの問題を解決するためにさらなる研修を積みたい。

(8) 配慮を必要とする児童の意識の変容と分析・考察

配慮を必要とする児童及び特に日常的に配慮する必要のない児童一人の初期アンケートと最終アンケートの結果の比較を行った。(左側が初期、右側が最終。下の数字が各問。)

【Aさん】

問3(自己肯定感)の向上、
問4、5(主体的活動)の向上が分かる。



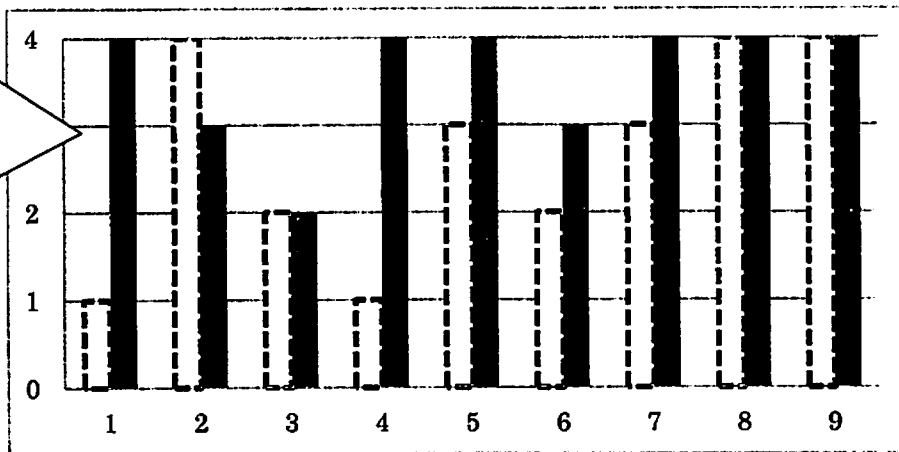
問7、9(人間関係)の向上が分かる。

特別支援の先生から、以前よりだいぶ落ち着いたこと、中学校からは、通常学級でも、問題ないのではないかと話していただいた。

担任からみてもだいぶ落ち着いてきたように感じる。少なくとも、トラブルはほとんどなくなった。

【Bさん】

問1(自己肯定感)の大幅な向上、
問4、5、6(主体的活動)の向上が分かる。
問7(人間関係)も向上した。

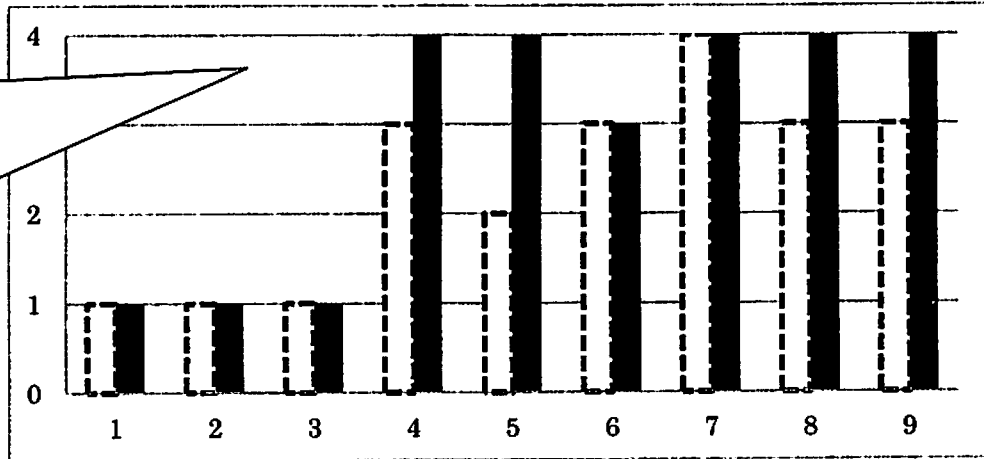


友だちからは、「楽しい子」というスタンスを確立。担任から見ている限り、いじめられたり、馬鹿にされたりすることがなくなった。

6年生1学期は学級委員長を務めた。言葉遣いなど心配な面はあったが、周りがしっかりフォローし、全体の前で進行をしたり、市長をご案内したりと、大役を務めきることができた。

【Cさん】

問4、5
（主体的活動）の向上
が分かる。
問8、9
（人間関係）も向上
した。



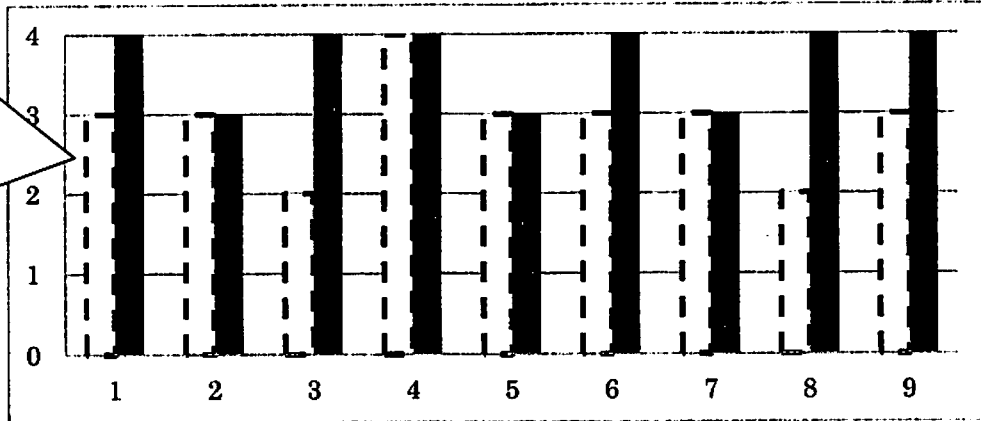
学習面や普段の係活動を頑張る姿が見られるようになった。友だちとのトラブルも少しずつ減っている。

他の先生や、保護者からは「良くなった。」と言われるが、本人は「他の人と比べて失敗が気になる。」という理由から、自己肯定感の向上がみられなかった。

5年の校外学習のリーダーを務めたときに、自己肯定感が向上したが、6年生でも縦割りリーダーを務めているので、一概にリーダーになれた＝自己肯定感の向上とは、言い難い。

【Dさん】

問1、3
（自己肯定感の向上が
分かる。
問8、9
（人間関係）も向上
した。



成績も運動能力も良い児童。

しかし、初期のアンケート結果からは、自己肯定感、人間関係が高くないことが伺えた。家が他の人よりも遠く、5年時初期には保護者を巻き込んだ友だちとのトラブルもあった。

6年時は大きなトラブルもなく、友だちと楽しそうに過ごしている。今では、頼れるリーダーとなり、図書委員長を務めている。

4. 成果と課題

【成果】

- 継続したエクササイズは、児童の自己肯定感を向上させ、人間関係を良くすることが分かった。
- 連絡帳へのコメントは、担任と児童の人間関係を良くするだけでなく、保護者との関係も良くした。
- 自己肯定感が高く、人間関係が良い学級は、一人ひとり意見をしっかり述べるので、話し合い活動が充実することが分かった。
- リーダー一人が頑張るのではなく、みんなで支えていくことが大事だと、児童が気付くことができた。
- クラス会議を行うことで、学級を自分たちでよくしていこうという空気が生まれた。担任が決めるのではなく、自分たちできまりを考えようとする雰囲気生まれた。

【課題】

- ▲Cさんのように、まわりが成長したと感じても、自己肯定感が上がらない児童もいる。そのような児童の自己肯定感を高めるための手立てを、今後も考えていきたい。
- ▲家庭環境が自己肯定感に与える影響が大きい。保護者との協力をより密にし、学校として、担任として更に何ができるのかを考えていく必要がある。
- ▲小学生において、「学力」というのは、とても大きい要素を持つことが分かった。自己肯定感には、学力が関わってくるということが分かったので、日々の授業もさらに頑張っていきたい。
- ▲自己肯定感と自己有用感の因果関係を調べると、新しい発見があるはずなので、今後も研修を重ねていきたい。
- ▲アンケート項目について、もう少し精査するべきだった。

【参考文献】

- 文部科学省 「小学校学習指導要領」
- 文部科学省 「教育課程企画特別部会 論点整理」
- 瀧口 信晴、森田 純、山田 雅彦（2014）
「学校現場における児童の社会性測定法の開発と活用に関する事例研究：小学校高学年の学級集団づくりのための活動を対象として」 『東京学芸大学紀要』
- 白石 正明編（2016）『史上最強のアクティブ・ラーニング読本』 小学館
- 江越 喜代竹（2016）『学級アイスブレイク』 株式会社 学陽書房
- 赤坂 真二編（2015）『クラスを最高の雰囲気にする！目的別学級ゲーム&ワーク50』
明治図書出版株式会社
- 赤坂 真二編（2015）『クラス会議入門』 明治図書出版株式会社

資料編

【アンゲームの感想】

アンゲーム

とても簡単なゲームです。緊張せずに正直に答えて下さい。
ただしルールが2つだけあります。必ず守って下さい。

- ①友達がしゃべっているときは、相手の目を見てだまって聞く。
②カードの質問には、正直に答える。答えにくい場合はパスをしてよい。

アンゲームを行ってみたいの感想

楽しい気持ちになった。ちゃんと聞いてくれるからいやなきもちにならないで、できた。

アンゲーム

とても簡単なゲームです。緊張せずに正直に答えて下さい。
ただしルールが2つだけあります。必ず守って下さい。

- ①友達がしゃべっているときは、相手の目を見てだまって聞く。
②カードの質問には、正直に答える。答えにくい場合はパスをしてよい。

アンゲームを行ってみたいの感想

(どんな気持ちになったか、新しい発見があったかなど)
他の人が自分の話をちゃんと聞いてくれた。いつもはみんながいろいろのことを言っているけど、自分の話を聞いてもらえなかったけど、1人が自分のことをいろいろと話を聞いてくれたことと、また少し知れたかなと思えた。

↑ 特別支援の児童の感想

【Xさんからの手紙の感想】

Xさんからの手紙

様へ

私はあなたのことを、とてもおもしろい 友人だと思います。
なぜなら、言葉がはずみ、いるだけで明るくなる からです。
そのとき、ぼくも、木目寺と話を合わせられたい と思いました。
これからも、お互い充実した学校生活を過ごしましょう。(男・女)より

今日のエンカウンターを行っての感想

(分かったことやうれしかったことなど)
木目寺とも話を合わせられる人という事がわかったのでうれしかったです。書いてくれた人が気にしていました。

Xさんからの手紙

様へ

私はあなたのことを、一生けんめい 友人だと思います。
なぜなら、算数の時分分からない問題に必死にとりかかっています。
そのとき、一生けんめい頑張っていいな と思いました。
これからも、お互い充実した学校生活を過ごしましょう。(男・女)より

今日のエンカウンターを行っての感想

ぼくは算数の時分分からない問題に必死じゃないと思っていたけど他の人からみるとこんなんだと分かった。(じかくがなかった)

↑ 2段目 特別支援の児童の感想

【こっち向いてお願い！/ココア・リバーの感想】

アイスブレイク

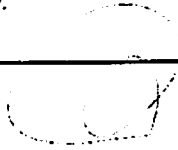


【こっち向いてお願い！】

- ①目で向になります。
- ②小島先生が「こっち向いてお願い！(3・2・1・パン)」と叫びます。
- ③トンで右の方を向いて下さい。
- ④お互いに向き合っていたらハイタッチ！向いていなかったら悲しむ。

向き合ったときにどんな気持ちになったか/このアイスブレイクを行ってからの感想

友だちと目が合った時うれしい。気持ちにはなりました。楽しかったです。



【ココア・リバー】

- ①目で相手陣を人数分持ちます。
- ②マーカークーンからマーカークーンまで行ければゴールです。
- ③ただし足が離れた瞬間に球棒 (小島先生) が邪魔球を蹴っていきます。
- ④全員がゴールできたならココア・リバークリアです！

どんなリーダーシップ/サポートができたか/このアイスブレイクを行ってからの感想

リーダー役(4人)使った時は上手にできなくて5分程度に終わったのでお疲れしました。つ、つりの時はその時はもうやめた方が良さそうだったので、その時にチームワークが大切というのを改めて感じたことができました。

いろいろ友だちとやりたかったです。

アイスブレイク



【こっち向いてお願い！】

- ①目で向になります。
- ②小島先生が「こっち向いてお願い！(3・2・1・パン)」と叫びます。
- ③トンで右の方を向いて下さい。
- ④お互いに向き合っていたらハイタッチ！向いていなかったら悲しむ。

向き合ったときにどんな気持ちになったか/このアイスブレイクを行ってからの感想

目が合うと自然に笑いや、うれしさなどが出てきて楽しめた。

【ココア・リバー】

- ①目で相手陣を人数分持ちます。
- ②マーカークーンからマーカークーンまで行ければゴールです。
- ③ただし足が離れた瞬間に球棒 (小島先生) が邪魔球を蹴っていきます。
- ④全員がゴールできたならココア・リバークリアです！

どんなリーダーシップ/サポートができたか/このアイスブレイクを行ってからの感想

いろいろな友達とやって、それぞれのこせいが見えた。またやりたい。

【ジャイアントウォールの感想】

ジャイアントウォール

氏名 []

みんなで協力して、ステージに上ろう。一つクリアするごとにレベルアップ！いくつかの「壁」を超えるかな？

ルール
 使ってよい言葉はプラス言葉のみ。マイナス言葉は使いません！！
 ステージ上に上がった人はクリアまで下には降りられません。
 「壁」に乗れるのは4人だけです。
 けがの危険がなければ、どんな方法を使っても構いません。

今日の学習の感想・学んだこと (5行以上書きましょ！) **ジニアノ**

ジャイアントウォールは、壁を乗り越えて進むことが目的で、その中で、いろいろな人が協力して、壁を乗り越えることができました。また、壁を乗り越えるためには、みんなの協力が必要だということも学びました。

ジャイアントウォール

氏 []

みんなで協力して、ステージに上ろう。一つクリアするごとにレベルアップ！いくつかの「壁」を超えるかな？

ルール
 使ってよい言葉はプラス言葉のみ。マイナス言葉は使いません！！
 ステージ上に上がった人はクリアまで下には降りられません。
 「壁」に乗れるのは4人だけです。
 けがの危険がなければ、どんな方法を使っても構いません。

今日の学習の感想・学んだこと (5行以上書きましょ！)

みんなが協力して、壁を乗り越えることができました。また、壁を乗り越えるためには、みんなの協力が必要だということも学びました。

↑1段目 特別支援の児童の感想

【ブラインド・ウォークの感想】

氏名

【ブラインド・ウォーク】
 お互いの目を見て挨拶をします。「よろしくお願ひします。」
 片方が目隠しをします。
 サポート役の方は、やさしい言葉かけだけで、目隠しした人を誘導します。
 ゴールまでついたら、サポートの方は目を見て「おめでとう！」といいます。
 目隠しを外し、口を見て「ありがとう。」と言います。
 役割を交えます。
 どんなサポートができましたか／案内されてどんな気持ちになりましたか／
 のアイスブレイクを行ってみたいの感想（5行以上書きましょう。）

最初は さんをサポートした時、まっすぐサポートできたけれど、エコーがゴールまでついてきて、どのようにサポートしたらいいかわからなくなりました。ゴールまでついたら、サポートの方は目を見て「おめでとう！」と言います。目隠しを外し、口を見て「ありがとう。」と言います。役割を交えます。どんなサポートができましたか／案内されてどんな気持ちになりましたか／のアイスブレイクを行ってみたいの感想（5行以上書きましょう。）

最初は さんをサポートした時、まっすぐサポートできたけれど、エコーがゴールまでついてきて、どのようにサポートしたらいいかわからなくなりました。ゴールまでついたら、サポートの方は目を見て「おめでとう！」と言います。目隠しを外し、口を見て「ありがとう。」と言います。役割を交えます。どんなサポートができましたか／案内されてどんな気持ちになりましたか／のアイスブレイクを行ってみたいの感想（5行以上書きましょう。）

氏名

【ブラインド・ウォーク】
 お互いの目を見て挨拶をします。「よろしくお願ひします。」
 片方が目隠しをします。
 サポート役の方は、やさしい言葉かけだけで、目隠しした人を誘導します。
 ゴールまでついたら、サポートの方は目を見て「おめでとう！」といいます。
 目隠しを外し、口を見て「ありがとう。」と言います。
 役割を交えます。
 どんなサポートができましたか／案内されてどんな気持ちになりましたか／
 のアイスブレイクを行ってみたいの感想（5行以上書きましょう。）

人も目がかくしたいというので、「も」を「さ」にして、しんがいてあげて、よくできました。友達との協力や、手助けは、みんなが「よくできました」と言ってくれたのでとてもうれしかったです。

↑ 2 段目 配慮を要する児童 (S さん)

【カウントアップの感想】

アイスブレイク

氏名

アイスブレイク

氏名

【カウントアップ】

- ① 1～23までの数字を一入一つずつ言います。
- ② 誰が何番を言っても良い。
- ③ 言葉がかわったら最初からやり直し！

どうしたら成功するか／このアイスブレイクを行ってみたいの感想

【どうしたらうまくいくと思うか】
 ・みんなが出席番号順で言う。

【このアイスブレイクを行ってみたいの感想】
 最初は、なかなかできませんでしたけれど、みんなの協力のおかげで、みんなが成功したときはとてもいい気分になった。

【カウントアップ】

- ① 1～23までの数字を一入一つずつ言います。
- ② 誰が何番を言っても良い。
- ③ 言葉がかわったら最初からやり直し！

どうしたら成功するか／このアイスブレイクを行ってみたいの感想

【どうしたらうまくいくと思うか】
 ・出席番号に、1から23まで順番で言う。
 ・みんなが順番で言う。

【このアイスブレイクを行ってみたいの感想】
 最初は何も一緒に言えなかったけれど、みんなが順番で言うようになって、最初はみんなが順番で言うようになったので、みんなが言うという事はいい！、とてもいいと思います。

【取材式自己紹介の感想】

アイスブレイク

【取材式自己紹介】

- ①時計回りで相手に一つだけ取材していきます。
- ②答えにくい質問は「パス」で構いません。
- ③時間がくるまで何度も質問します。

| 氏名 | 取材内容 |
|----------------------|----------------------|
| <input type="text"/> | 好きな色 木色 |
| <input type="text"/> | 最近ハマっていること マリメカマー |
| <input type="text"/> | ハムスターの 色クレ |
| <input type="text"/> | 好きな食べ物 フーノン |
| <input type="text"/> | 得意なこと ハードル |

このアイスブレイクを行った感想

アイスブレイクをやってみて、グループの人の好きなことや得意なことがよくわかりました。そして、グループの人と仲よくなれるようにがんばろうと思いました。

アイスブレイク

【取材式自己紹介】

- ①時計回りで相手に一つだけ取材していきます。
- ②答えにくい質問は「パス」で構いません。
- ③時間がくるまで何度も質問します。

| 氏名 | 取材内容 |
|----------------------|--------------------------------------|
| <input type="text"/> | 梅ぼれバスケ 日本人、リウは日かきい サッカー、まあま、ピカ |
| <input type="text"/> | 自分の好きな食べ物、好きな音楽 洋食 |
| <input type="text"/> | 夢が音楽家、 新しい音楽、 映画、アニメ、フーノン |

このアイスブレイクを行った感想

人のことがとても同じところなところがあるのいいと思いました。アツク人なりにしゅめはおねの人もいいと思いました。おねはいいなと思って。

↑ 転入生

↑ 配慮を要する児童 (Tさん)

【アベレージヒッターの感想】

アベレージヒッター

6年1組

- ①1〜50までの数字を1つ選んで書きます。
- ②「アベレージ？」と先生が言うので、「ヒッター！」と言って数字を一生に見せ合います。
- ③一番大きな数字、一番小さな数字、他の人とかぶった数字を書いた場合、「0点」です。数字の上に×をしましょう。それ以外の人は、書いた数字が得点になります。数字の上に○をしましょう。
- ④5回戦行い、合計得点が一番上だった人が優勝です。

| 1回戦 | 2回戦 | 3回戦 | 4回戦 | 5回戦 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 26 | 31 | 28 | 23 | × | 108 |

今日のエクササイズを行った感想

友達がみんな数字を書いたのが気になりました。友達がかぶらないように目を見て、相手の予想をすることも楽しかったです。友達がかぶると、同じことを考えていたんだなと思いました。

アベレージヒッター

6年1組

- ①1〜50までの数字を1つ選んで書きます。
- ②「アベレージ？」と先生が言うので、「ヒッター！」と言って数字を一生に見せ合います。
- ③一番大きな数字、一番小さな数字、他の人とかぶった数字を書いた場合、「0点」です。数字の上に×をしましょう。それ以外の人は、書いた数字が得点になります。数字の上に○をしましょう。
- ④5回戦行い、合計得点が一番上だった人が優勝です。

| 1回戦 | 2回戦 | 3回戦 | 4回戦 | 5回戦 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 21 | 17 | 24 | 30 | 28 | 117 |

今日のエクササイズを行った感想

みんなが数字を書いたのが気になりました。みんながかぶらないように目を見て、相手の予想をすることも楽しかったです。友達がかぶると、同じことを考えていたんだなと思いました。

【ほめほめじゃんけん／共通点を探せ／ピタバラッスイッチの感想】

アイスブレイク

名 []

【ほめほめじゃんけん】
 ①相手を見つけてじゃんけんをします。
 ②勝った人は相手のことをほめます。負けた人はお礼を言って、感謝の気持ちを伝えます。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 じゃんけんをやるのがおもしろい。自分のことをほめられるのがうれしい。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

【共通点を探せ】
 ①ペアでひたすら共通点を探します。
 ②それぞれ発表してもらいます。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 共通点を探せは、おもしろい。お礼を言おう。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

【ピタッバラッスイッチ】
 ①小島先生が出すお題に全員で答えます。答えは両手に書きます。
 ②1回目目は全員が一致したらクリアです。
 ③2回目目は全員がバラバラになったらクリアです。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 お題が4回目は「ピタッ!」だったので、お礼を言おう。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

| | | | |
|------------------|-------|-------|--------|
| 全員で「ピタッ!」を目標そう!! | | | |
| ① リンゴ | ② リンゴ | ③ リンゴ | ④ リンゴ |
| 全員で「ピタッ!」を目標そう!! | | | |
| ① スパゲッティ | ② そば | ③ うまね | ④ ミツバネ |

アイスブレイク

名 []

【ほめほめじゃんけん】
 ①相手を見つけてじゃんけんをします。
 ②勝った人は相手のことをほめます。負けた人はお礼を言って、感謝の気持ちを伝えます。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 じゃんけんをやるのがおもしろい。自分のことをほめられるのがうれしい。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

【共通点を探せ】
 ①ペアでひたすら共通点を探します。
 ②それぞれ発表してもらいます。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 共通点を探せは、おもしろい。お礼を言おう。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

【ピタッバラッスイッチ】
 ①小島先生が出すお題に全員で答えます。答えは両手に書きます。
 ②1回目目は全員が一致したらクリアです。
 ③2回目目は全員がバラバラになったらクリアです。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 お題が4回目は「ピタッ!」だったので、お礼を言おう。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

| | | | |
|------------------|---------|-------|-------|
| 全員で「ピタッ!」を目標そう!! | | | |
| ① リンゴ | ② リンゴ | ③ リンゴ | ④ リンゴ |
| 全員で「ピタッ!」を目標そう!! | | | |
| ① エビフライ | ② セルマゼン | ③ ミルク | ④ かつお |

↑上段右 特別支援の児童の感想

↓下段左 配慮を要する児童 (Tさん)

アイスブレイク

名 []

【ほめほめじゃんけん】
 ①相手を見つけてじゃんけんをします。
 ②勝った人は相手のことをほめます。負けた人はお礼を言って、感謝の気持ちを伝えます。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 じゃんけんをやるのがおもしろい。自分のことをほめられるのがうれしい。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

【共通点を探せ】
 ①ペアでひたすら共通点を探します。
 ②それぞれ発表してもらいます。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 共通点を探せは、おもしろい。お礼を言おう。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

【ピタッバラッスイッチ】
 ①小島先生が出すお題に全員で答えます。答えは両手に書きます。
 ②1回目目は全員が一致したらクリアです。
 ③2回目目は全員がバラバラになったらクリアです。

【このアイスブレイクを行ったときの感想】
 お題が4回目は「ピタッ!」だったので、お礼を言おう。また、勝った人にはお礼を言おうと思った。お礼を言おう。

| | | | |
|------------------|-------|-------|-------|
| 全員で「ピタッ!」を目標そう!! | | | |
| ① トマト | ② リンゴ | ③ リンゴ | ④ リンゴ |
| 全員で「ピタッ!」を目標そう!! | | | |
| ① バナナ | ② バナナ | ③ コーラ | ④ 餃子 |

↓下段右 配慮を要する児童 (Sさん)

アイスブレイク

名 []

【ほめほめじゃんけん】

ほめたり、ほめられたりして、うれしかったし、楽しかったです!! ほめられるのは、少し自分でもきづかないところをほめてくれたりして、ほめるほうは、友達のことをほめたら、「ありがとう」などいってくれてうれしかったです。

自分と相手の共通点を知れてよかったです。共通点しかなくておどろきました。楽しかったです。

だれがどんなものを言うのかわからないので、ワクワク、ドキドキしました。「ピタッ!」はいろんなこたえがでて、自分では、思いうかばなかったものもあって、おどろいたり、おもしろかったりでした。

【連絡帳を使った担任からのコメントに対する親の反応①】

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|--|------------------|-------------------|-----------------------|--------------------------|---|--|
| <p>いつもお世話になってます。 <input type="checkbox"/>さんは課題も</p> | <p>全て終えることができました。本人も言っていましたか</p> | <p>お母さんの手助けがあのことだと思えます。</p> | <p>一年間ありがとうございました。かしぼりてきた</p> | <p><input type="checkbox"/>さんとてもたくさんほめてあげて下さい。よろしく</p> | <p>お願いいたします。</p> | <p>おはようございます。</p> | <p>一年間 お世話になりました。</p> | <p>成長とともに対外的な部分も出て来て</p> | <p>お母さんやカン合が回が多くなってしまった様子の 周りにまじり 身長も体重も大人並に成長しましたか 中身は昔と変わらぬ。大変わらなうです</p> | <p>女と一年の小学校生活で、お母さんや先生から受けた たくさんお世話もありがとうございます。 <input type="checkbox"/></p> |
|--|----------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|--|------------------|-------------------|-----------------------|--------------------------|---|--|

↑上段 配慮を要する児童 (Tさん)

↓下段 特別支援の児童の感想

いつもお世話になってます。さんです。体育委員、副委員として号令をかけたリ、下級生に指示を出したりと一生けん命がんばっています。せとお家をもほめてあげて下さい。よろしくお願いたします。

(先月も自分で考え行動できる場面が多かったです。他の先生もほめていました。)

いつもお世話になっております。6年生らしくなりました。お勉強頑張っています。うれしく思います。家でもよく頑張っています。ソマールさんが、私も気持ちに余裕が出てさん、お母さん、お父さん、スキップが増えています。いつも頑張っています。と思います。いつもありがとうございます。

【クラス会議 実際に上がってきた議題の一部】(H29. 1月~H29. 7月で44枚受理)
『各係から返事を出すもの』

議題提案用紙
議題 (丸で囲んでね)
困っていること
みんなに相談したいこと
みんなに聞いてほしいこと
みんなが計画したいこと
みんなが話し合いたいこと
その他 ()

三学期に一日レクをつくり、おぼけやしきをやって下さい。

(レク係からの返事)

レク係も、一日レクはやりたいと思っています。みなさんの授業態度で授業の進み具合が変わるので、ご協力よろしくお願いします。そしてお化け屋敷については、こちらで考えておきます。

(提案理由)

楽しみなのでやってほしい。

『クラス会議で話し合うもの』

議題提案用紙
議題 (丸で囲んでね)
困っていること
みんなに相談したいこと
みんなに聞いてほしいこと
みんなが計画したいこと
みんなが話し合いたいこと
その他 ()

無言食事タイムをなくしてほしい。それが
だめなら2日に1度ぐらいにしてほしい。

⇒ 1週間が試し ← 成功 成功
失敗 2日に1回

提案理由

無言食事タイムがあると、ぼくにはよく食べられないし、人を笑わせるような曲が放送で流れたとき笑わないようにするのがとてもつらいからです。

学級のために貴重な意見をありがとうございます!

『学級ノートで意見を交換するもの』

議題提案用紙
議題 (丸で囲んでね)
困っていること
みんなに相談したいこと
みんなに聞いてほしいこと
みんなが計画したいこと
みんなが話し合いたいこと
その他 ()

(具体的な内容)

無言食事タイムの復活を希望している。
= 食べ終わっている。

提案理由

必要だから ← 無言食事タイム

学級のために貴重な意見をありがとうございます

・ぼくは、このまま続けた方がいいと思います。理由は、はじめのうちはみんな無言食事タイムを復活させまいと食べ終わるのがはやくなるでしょうけど、たぶんそのうちそのことも忘れ、ががやうるさく食べ、昼休みが短くなると思ったからです。

・ぼくはもうやめてもいいと思います。理由は、もう六年生になったし、下の学年のお手本にならなきゃいけないからです。

・私は無言食事タイムを続けた方がいいと思います。理由は、食べ終わっていない人がいるからです。

・ぼくは無言食事タイムは続けた方がいいと思います。理由は、ぼくも〇〇さんと同じで、そのうちうるさく食べてしまって、給食の時間が長くなってしまったと思ったからです。

・私は無言食事タイムが必要だと思います。あくまでも、静かにする時間なので、「無言タイム」にすれば良いと思います。(一部抜粋)

実践した内容と反省

| 9月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|--|---|---|--|
| 1週目 | 休み明け〇×クイズ 2学期係決め | 係の様式は自分達で 考えさせる。 アイスブレイク 「月とロケット」実施受け◎ | アンケート実施 (自己肯定感が分かるようなアンケート) 教室内環境整備 (ICTを準備しなくても、すぐできる環境に) | →実施済み →整備済み |
| 2週目 | 9月の目標決め (学級・係・個人) 運動会に対する目標決め | アイスブレイク 「キャッチ」実施受け◎ 1人1意見をもたせる 点数化させることで、目で見える向上にさせる。 | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを 保護者に連絡。(23人分) | →1日1人 or 2人で 実施。 9月は全員できた。 |
| 3週目 | ソーシャルスキルトレーニング (アンゲーム) エクササイズ | ルールを明確に決める。 エクササイズ (Xさんからの手紙) 実施 できず。 | レク係を活用し、毎週水曜日、最 低5分、みんなでできるレクを行 うのも良いかもしれない。 | →運動会関係で9月 はできず。 |
| 4週目 | 3日間のみで、運動会準備もあり、 実施できない。 →10分だけ時間確保。 | 空いた時間ができたので、(Xさんからの 手紙) 実施。 | | 【反省】校外学習の グループ決めの時に、 やや孤立してしまう 児童、や固定された 友人関係の中でない と動けない児童が女 子で数名いた。仲間作 りのエクササイズを 行う必要がある。 |
| 5週目 | エクササイズ (5分) 小見川少年自然の家に向けた 目標決めなど | エクササイズ5分実施できず。 一人一意見をもたせる。 多くの交友関係をもたせるグループ決 めの声かけ。(同じ人とは組ませない。) | 23人分全員に連絡帳書くこと ができた。 | |

| 10月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|---|--|---|--|
| 1週目 | 9月の反省・10月の目標決め (学級・係・個人) | | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(23人分) | |
| 2週目 | SST (アンゲーム) 5分 アイスブレイク 「こっち向いてお願い」10分 「ココア・リバー」25分 | 「こっち向いてお願い」でお互いに気持があったときの喜びを体感させる。 「ココア・リバー」では、フォローする人の重要性に気付かせる。 5分のSSTできず。 | →反省 「こっち向いてお願い」◎ 「ココア・リバー」盛り上がりすぎてふざける男子が出た。ルールを徹底し、みんなで協力すること、楽しむ=ふざけるではないことを指導。 騒ぎ声をださないように指導した方がよい。 | →反省② 振り返りはしっかり〇〇行書 こうと指導しないと適当に書く児童がいるので注意。 |
| 3週目 | SST (アンゲーム) 5分 小見川少年自然の家に向けた準備 | 5分のSSTできず。 | | 【反省】 ワークシートに「感想・学んだことは、5行以上書く。」ということを明記した方がよい。 |
| 4週目 | 10月の反省 11月の目標決め (学級・係・個人) | | 23人分全員に連絡帳を書くことができた。学級懇談会でも、お家の人にコメントをもとに、子どもをもっと励ますように話げできた。 | |

| 11月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|---------------------------------|---|--------------------------------------|--|
| 1週目 | アイスブレイク 「ジャイアントウォール」 | フォローする人の重要性に気付いてきたようだ。児童からはもっとやりたい!との声が聞かれた。 | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(23人分) | 【反省】 ・県教研で学んだ「自己有用感」「自己肯定感」について調べる。 ・男女間などの学級の協力する力はずいぶん身に付いてきたように感じる。12月はピアサポート中心に進めていきたい。 ・感想5行以上書くと明記すると活動内容をよく振り返り書くようになった。「深い学び」に関わってくると思う。 ・教室内に限らず、体育館、大ホールの使用がよい。 |
| 2週目 | 音楽発表会の時数確保 | | | |
| 3週目 | アイスブレイク 「ブラインド・ウォーク」 | ランダムでペアを組んだが、全員仲良く楽しくやっていた。視界が全くないので、相手に頼らざるをえない状況だったが、それゆえにお互いに信頼感を深める結果となったようだ。 | | |
| 4週目 | 勤労感謝の日 なし | | | |
| 5週目 | 11月の反省 12月の目標決め (学級・係・個人) | | 23人分全員に連絡帳書くことができた。 | |

| 12月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|------------------------|---------------------------------|---|--------------------------------------|-----------------------------|
| 1週目 (11月5週目に 同じ) | | | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(23人分) | |
| 2週目 | ピア・サポート実施(第1回) | 5年生の課題「問題解決について考える」は、3学期に実施したい「クラス会議」につなげられる。まずは「解決のホイール」を考えさせることが大切。 | | |
| 3週目 | ピア・サポート実施(第2回) | | | |
| 4週目 | 12月の反省 1月の目標決め (クラス・係・個人) | | 23人分全員に連絡帳書くことができた。 | 二学期最終日(12/22) アンケート全員実施。 |

12月の反省

- ・ピアサポート中心に学活を進めることができた。
- ・5分のSSTができなかった。時間配分をよく考えなければいけない。
- ・基本的に自分の考えをじっくり書く→小グループ(3人)で話し合う→分担を決め、必ず全体の前で発表するという流れで授業を行った。
- ・友達の意見をしっかり聞かせるために、緑色で友達の意見を書くように指導した。
- ・9月に帽子隠し(見つからず)、11月に名札隠し(翌日見つかる)、12月に帽子隠し(いじめについて全体で話し合った後に出てきた。)悪意のある手紙が2回特定児童に届く(犯人見つからず)という生徒指導上、問題となるできごとが4件あった。アンケートから「人間関係」の項目は高くなっているが、上辺だけの可能性もあるので、注意して見ていきたいと思う。
- ・自己肯定感が多少向上してきた。1月は解決のホイールを考えさせ、クラス会議を行ってみたい。

| 1月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|--|--|---|--|
| 2週目 | 係決めを行う。 | | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(23人分) | 【反省】 ・1月中旬、帽子隠しが再び起き学級全体が暗い雰囲気になった。担任が主導のもと学級で話し合いをしたが、やはり児童自らが主体的に話し合えるシステム作りと雰囲気づくりが大切。→クラス会議が一つのヒントになりそう。 |
| 3週目 | ・SST, 2分間瞑想, カウントアップを行う。 | カウントアップ, 好評。 児童の中でどうすれば良いかをペア, 班, 2分の1で話し合わせるとやっとできた。「みんなで意見を交換することが大事」ということに気付いたようだ。 | | |
| 4週目 | ・クラス会議(もどき)を行う。 「議題」 ・クラスの写真の決め言葉 ・解決のホイールをどうしたらよいか | 「解決のホイール」 小グループでの話し合い →クラス全体で話し合い。 | 「決め言葉」 全体で輪になり話し合い。目印をもった人が発言権。 全員に必ず一意見言ってもらった。教師は板書のみ。指名も児童。 児童だけで進められたが、どうしても発言する児童に偏りがでた。課題。 | 【反省】 ・道徳にてリフレーミング実施。 →児童にはかなり好評価だったが、そもそも自分の長所を書けない児童が多くて驚いた。 |
| | | | 23人分全員に連絡帳書くことができた。 | ポスト・ぬいぐるみ購入 メモ用紙作成 クラス会議の本を読む(赤坂) |

| 2月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|--------------------------------|--|---|---|
| 1週目 | 1月の反省 2月の目標決め (クラス・係・個人) | | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(23人分) | 【反省】クラス会議本格的に開始。ポストを設置すると、多くの議題がでて驚いた。時間の関係で教師が①～⑤取捨選択。 ①クラス会議に議題とする。 ②学級ノートの議題とする。 ③教師からの全体指導とする。 ④担当の係に返事を書いてもらう。 ⑤担任が返事を書く。 学活は月4回。 ①前月の反省、今月の目標 ②エクササイズ ③クラス会議 ④エクササイズ OR クラス会議の流れが良いのかも。 |
| 2週目 | ハッピーレター クラス会議 | 長所や良いところをクラス全員に一言ずつ書いてもらう活動。最後に自分のところに回ってきたが、みんな笑顔だった。 | 道徳でクラス会議を実施。「学校の規則について」円になり、3項目について一人一意見を言った。その後、約束決め。文章ではなく、箇条書きの方が良いとこのことで、箇条書きのルールが決まった。 | |
| 3週目 | クラス会議 | 学活「無言食事タイムは必要か」 →テスト期間を決め、時間内に全員が食べ終われば、廃止。できなければ2日間に1回という結論になった。 →2日間に1回になった。 | | 学級ノート活用 自分達でルールを決める内容 給食後5分間で一人ずつ書いて回していく。4班なので4冊。議題 「学校にストラップは持ってきて良いのか。」 |
| 4週目 | 取材式自己紹介 アベレージヒッター 宇宙旅行 | インフルエンザ流行による学級閉鎖のため、実施できず。 | 23人分全員に連絡帳書くことができた。 | →お守り類はOK。大きすぎないもの2つという結果に。 |

| 3月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|-----------------------------------|------------------|--|--|
| 1週目 | 2月の反省 3月の目標決め (クラス・係・個人) | | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。 (23人分) | 学級ノート 議題 「学級文庫の本を自分の引き出しに入れるのはよいか。」 →視点が二つに分かれたので、賛成派と反対派に分かれるおもしろい結果となった。 →短い時間だが、全体の場で意見を聞いた結果、引き出しに入れるのはなしになった。 |
| 2週目 | 卒業式練習、短縮日程のため 実施できず。 | | | |
| 3週目 | 学級閉鎖の影響で、実施できず。最終日に、担任主導でビンゴを行った。 | | | |
| 4週目 | | 春休みのため 実施できず。 | 保護者に連絡できた。 (一人は電話連絡。) | |

3月の反省

- ・学級閉鎖の影響がかなり大きい(20時間なくなる)。卒業式練習、6年生を送る会、6年生へのメッセージカード作成、取りまとめなどで、ほとんど時間が確保できなかった。3月の学活の年間計画を立てるのは、学校行事とよく摺り合わせた上で検討していかなくてはいけない。
- ・学活時数：4月 4時間、5月 3時間、6月 4時間、7月 2時間、9月 3時間、10月 4時間、11月 4時間、12月 2時間、1月 3時間、2月 3時間、3月 3時間 年間計 35時間 行事関係に合わせて学活で時数を確保されると厳しい。
- ・月最低でも、①前月の反省、今月の目標 ②エクササイズ ③クラス会議 はほしいと思う。
- ・詳細な年間指導計画はとても大事。理想は学年の発達段階に応じて組むこと。系統性があればなおよし。5年生で始めたが、やはり児童の意識が凝り固まってしまっている部分が多く、6ヶ月で大きな向上を図るのは難しい。それでも数値の向上が見られたということは、活動の意義は大いにある。

| 4月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|--|--|--|---|
| 2週目 | 「学級目標決め」「4月の目標決め」 →学活1時間 「委員会活動決め」「係決め」 「取材式自己紹介」 →学活1時間 「 <u>入学式練習</u> 」→学活1時間 計学活3時間 | 「学級目標決め」 「4月の目標決め」 ・宿題で、各自案を考えてくる →学活で話し合い。 「取材式自己紹介」 →かなり評判良く、またやりたいとの声が多かった。メンバーを変えて、毎回実施も検討。 | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(24人分) | 学級ノート 議題 「無言食事タイムは必要か」 →6年生になってからの再提案。 提案理由として、ほとんどの人が食べ終わっているため。 →・もう必要ないという意見。 ・しばらくしたらまたしゃべりだし、給食時間が延びるから必要だという意見。 ・「無言タイム」に変えれば良いという意見。 大きく分けてこの3つの意見に分かれた。道徳などで、クラス会議をして、きまりの再検討も考慮すべきか。 |
| 3週目 | 「 <u>入学式準備</u> 」「 <u>入学式練習</u> 」「 <u>片付け</u> 」 →学活3時間 | | | |
| 4週目 | SST (アンゲーム) 5分 アベレージヒッター 20分 <u>縦割り活動・清掃分担決め20分</u> | 「アベレージヒッター」 →自然と相手のことを考えているという発想になった児童が少なかったが、教師からの声かけで、相手のことを考えていることに気付き、感想には多数「相手のことを考えた。」という意見が多かった。 | SST→取材式自己紹介に変更。 3人1グループ。1人につき、 2分取材。 | |
| 5週目 | 振替休日の関係でカット | | 24人分連絡完了。 | |

4月の反省

- ・学校統一で、学活でとる時数がやはり多い。(入学式関係で4時間)。さらに年度初め、最高学年ということもあり、決めることが多く、膨大な時間を割かれた。) その結果、クラス会議実施できず。5月に持ち越し。←ちなみに6年生の余剰時数はわずか10。(ドリルタイムの時数含まず。)
- ・4月末現在学活総時数「7」
- ・最高学年ということで、下級生のお世話を多くいただけた。

| 5月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|--------------------------------|---|--------------------------------------|---|
| 1週目 | クラス会議 | <p>学活でクラス会議 議題「教室を走っている人がいる」 「一部授業中の私語が多い」 →①やっている人たちは、どういう気持ちでやっているのか。 ②どうすればよいか。 ②の話し合いでは、精神論が目立ったので、具体的な方策をグループに分けて話し合わせた。 必ず一人一意見言うことを決まりとした。 並び順、グループ決めはトランプで決定。</p> | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(24人分) | <p>学級ノート 議題 「無言食事タイムのあり方について(全員が納得しそうな折衷案の提案)」 →全員の意見をもとに給食係が考えた。 →結果、無言食事タイムの廃止。 ただし、全員が55分には、食べ終わり・片付け終わり、ごちそうさまを目指すこと。 1学期間で、3回間に合わなかった場合は、昼休みなしということになった。</p> |
| 2週目 | 4月の反省 5月の目標決め (クラス・係・個人) | <p>道徳でクラス会議 議題「無言食事タイムは必要か」 ・4月の学級ノートの結果を受けてのクラス会議。それぞれの理由が、「中学校に向けて」「最高学年として」「下級生のことを考えて」などずいぶん自分にこだわらない意見が出てきた。時間になっても決まらなかったため、折衷案を五月の学級ノートでまとめることになった。</p> | | |
| 3週目 | 「部会陸上大会」 学活2時間 | <p>【反省】 ・道徳の時間を活用してのクラス会議は× ・時数確保が一番の課題</p> | | |
| 4週目 | 無人島ゲーム | <p>最初はルールだけ説明して実施した結果、良かったこと／悪かったことがあった。その後、問題点を克服するには、どうしたらよいか、一人一人が考え、2回目を実践した結果、全員が楽しめる活動になった。</p> | | |
| 5週目 | 時数調整のためなし。 | <p>GWと出張7日分の関係で、ぎりぎり31日に、24人分終えた。</p> | | |

| 6月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|-----------------------------------|---|--------------------------------------|---|
| 1週目 | 時数調整のためなし。 | | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(24人分) | 学級ノート 議題 |
| 2週目 | 5月の反省 6月の目標決め (クラス・係・個人) | | | 「図書室で借りた本を友達に貸すのはどうなのか」 提案理由として、10分休みなどの短い時間だが、貸しているのはどうなのかというもの。 →ダメだという意見が21件、短い時間くらいならという意見が、3件だった。そのなかでも、「6年生だけでなく、全校でルールを統一した方が良い。」という学校全体のことを考えられる意見も出てきた。そこから図書委員会で話し合ってもらい、決めてもらうこととした。 |
| 3週目 | 聴き方名人になろう！ 先生をスケッチ | 「聴き方名人になろう！」 →児童にとっても非常に受けが良く、かつ全員の感想から、「聴き方」について、しっかりと勉強できた様子が伝わってきた。年度初めにやると良いかもしれない。 「先生をスケッチ」 →温かい雰囲気を実施できた。児童も楽しそうだった。 | | |
| 4週目 | ほめほめじゃんけん 共通点を探せ ピタッバラッスイッチ | 「ほめほめじゃんけん」 →男女交互に行うように指導。全体が楽しくできていた。勝った児童は「ほめ名人」負けた児童は「ほめられ名人」と位置づけたのも良かったのかもしれない。 | | |
| 5週目 | 時数調整のためなし。 | 「共通点を探せ」 →男女で実施したが、たくさん共通点があることに驚き、笑顔が多かった。 「ピタッバラッスイッチ」 →全員が同じにするのは、すごく難しいので、失敗するごとにヒントを追加。4回目で成功。全員が異なるものにするのは、2回目で成功。全員が異なるものにする方が盛り上がった。 | | 連絡帳24人分連絡完了。 【反省】クラス会議で議題がなかったこと、担任が5月～6月にかけて出張が多く、児童とあまり関われなかったため、エクササイズを2時間実施。クラス全体が暖かい雰囲気になれた。 |

| 7月 | 学級活動 | メモ | その他 | メモ |
|-----|---|----|--------------------------------------|---|
| 1週目 | 6月の反省 7月の目標決め (クラス・係・個人) | | 1日2人 連絡帳にて、児童のよいところを保護者に連絡。(24人分) | 学級ノート 議題 「学校にヘアゴムやバンドエイドを持ってきてよいのか。」 |
| 2週目 | 学級レク お化け屋敷 昼休み+5時間目 | | | 提案理由として、ヘアゴムが切れてしまったり、けがをしてみたりしたときの対応とのこと。男子からよく言われるので、女子の思いを知ってほしいというもの。 |
| 3週目 | 通知表渡し 7月の反省 9月の目標決め (クラス・係・個人) 2学期の係決め | | 連絡帳24人分連絡完了。 | →バンドエイドも、派手ではないヘアゴムならOKということになった。ただし3つ程度。 |

7月の反省

- ・7月は、通知表渡し&学級レクで2時間とったため、エクササイズとクラス会議はなし。
- ・1学期16週のうち、学活の総時数は18だった。1週一回のペースで、できたことは驚き。

年間を通じての反省

- ・学力が児童に与える影響はとても大きい。きっと「自分の良いところ」は分かってきたのだと思うのだが、テストの数字をみたり、×を付けられたりすることが多いと、どうしてもマイナスに意識がいつてしまうのではないだろうか。「学活でのエクササイズ」「学力の向上」の両輪があり、さらなる自己肯定感の向上につながると思う。
- ・学力を上げるというのは点数だけでなく、些細なところでもクローズアップし、その子に自信をつけさせるということだと思う。小学校段階では、「勉強ができる」という気持ちが、実際の成績に影響を及ぼすことも少なくない。2学期以降、学習面でもさらなるフォローを心がけたいと思う。
- ・学活というのは、多くの学校行事などで時間をとられがち。年間を通して、どのくらいが学校関係でとられるのか、この一年間でしっかり検討したい。